

平成 14 年度 九州工業大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

工学部 平成 14 年 2 月 25 日

● 数 I・II・III・A・B・C (120 分)

1 行列 $A = \begin{pmatrix} 2 & 2 \\ -1 & 5 \end{pmatrix}$ に対して, $P = \begin{pmatrix} -1 & k \\ -1 & k \end{pmatrix}$, $Q = \begin{pmatrix} k & -k \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$ は $AP = (1+s)P$, $AQ = sQ$ をみたしている. ただし, s, k は実数である. n は自然数として次に答えよ.

- (1) s, k を求めよ.
- (2) $A^n P, A^n Q$ を求めよ.
- (3) A^n を求めよ.
- (4) A の逆行列を B とする. B^n を求めよ.

2 数列 $\{a_n\}$ が $a_1 = \frac{10}{9}$, $a_2 = 2$, $100a_{n+2} - 180a_{n+1} + 81a_n = 0$ ($n = 1, 2, 3, \dots$) によって与えられている. 次に答えよ.

- (1) $b_n = a_{n+1} - \frac{9}{10}a_n$ とおく. 数列 $\{b_n\}$ の一般項 b_n を求めよ.
- (2) $a_n = \frac{9}{10}b_n c_n$ により数列 $\{c_n\}$ を定める. 一般項 c_n および a_n を求めよ.
- (3) a_n が最大になるときの自然数 n を求めよ.

3 複素数 z に関する等式

$$|z| + |z - \sqrt{3}i| = k \quad \dots (*)$$

がある. $z = \frac{1}{4}$ が等式 (*) をみたしているとき, 次に答えよ.

- (1) k を求めよ.
- (2) 複素数 $z = \alpha$ は等式 (*) をみたし, 偏角が 60° である. α を求めよ.
- (3) α を (2) で求めた複素数とする. $\beta - \alpha$ が正の実数となるような複素数 $z = \beta$ は等式 (*) をみたさないことを示せ.
- (4) 複素数平面において, 原点を O , (2) で求めた α の表す点を A , α と異なり等式 (*) をみたす複素数 $z = \beta$ の表す点を B とする. $\angle BAO$ は 120° である. β を求めよ.

4 関数 $f(x) = \sqrt{2} - \frac{1}{2}(e^x + e^{-x})$ について、次に答えよ。

- (1) 関数 $f(x)$ の増減を調べ、 $y = f(x)$ のグラフの概形を描け。また、 $y = f(x)$ と x 軸の交点の x 座標を求めよ。
- (2) 曲線 $y = f(x)$ の $y \geq 0$ の部分の長さ ℓ を求めよ。
- (3) 曲線 $y = f(x)$ と x 軸で囲まれた図形を x 軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積 V を求めよ。

5 $a > 0, b > 0$ とする。曲線 $C_1: y = \frac{1}{x}$ と曲線 $C_2: y = ax^2 - 3b$ が 2 つの共有点 P, Q をもち、点 P では共通の接線をもつとする。次に答えよ。

- (1) a を b で表せ。
- (2) 点 P および点 Q の座標を b で表せ。
- (3) 点 Q における曲線 C_1 の接線と曲線 C_2 の交点で、 Q と異なる点を R とする。点 R の座標を b で表せ。
- (4) 線分 QR の長さ ℓ を b で表し、 ℓ の最小値とそのときの b の値を求めよ。

正解

□1 (1) $P = \begin{pmatrix} -1 & k \\ -1 & k \end{pmatrix}$ の成分に注意すると, $AP = (1+s)P$ から

$$A \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} = (1+s) \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$$

ゆえに $\begin{pmatrix} 2 & 2 \\ -1 & 5 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix} = (1+s) \begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}$ よって $s = 3$

$Q = \begin{pmatrix} k & -k \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$ の成分に注意すると, $AQ = sQ$ および上の結果から

$$A \begin{pmatrix} k \\ 1 \end{pmatrix} = 3 \begin{pmatrix} k \\ 1 \end{pmatrix}$$

ゆえに $\begin{pmatrix} 2 & 2 \\ -1 & 5 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} k \\ 1 \end{pmatrix} = 3 \begin{pmatrix} k \\ 1 \end{pmatrix}$ よって $k = 2$

(2) (1) の結果より $AP = 4P$ であるから

$$A^n P = 4^n P = 4^n \begin{pmatrix} -1 & 2 \\ -1 & 2 \end{pmatrix}$$

同様に, $AQ = 3Q$ であるから

$$A^n Q = 3^n Q = 3^n \begin{pmatrix} 2 & -2 \\ 1 & -1 \end{pmatrix}$$

(3) $P + Q = E$ (E は単位行列) であるから, (2) の結果より

$$\begin{aligned} A^n P + A^n Q &= 4^n \begin{pmatrix} -1 & 2 \\ -1 & 2 \end{pmatrix} + 3^n \begin{pmatrix} 2 & -2 \\ 1 & -1 \end{pmatrix} \\ A^n &= \begin{pmatrix} -4^n + 2 \cdot 3^n & 2 \cdot 4^n - 2 \cdot 3^n \\ -4^n + 3^n & 2 \cdot 4^n - 3^n \end{pmatrix} \end{aligned}$$

(4) $A^n P = 4^n P$ の両辺に B^n を左から掛けると

$$P = 4^n B^n P \quad \text{ゆえに} \quad B^n P = \frac{1}{4^n} P$$

同様に, $A^n Q = 3^n Q$ の両辺に B^n を左から掛けると

$$Q = 3^n B^n Q \quad \text{ゆえに} \quad B^n Q = \frac{1}{3^n} Q$$

$P + Q = E$ であるから, 上の 2 式の辺々を加えると

$$\begin{aligned} B^n &= \frac{1}{4^n} P + \frac{1}{3^n} Q \\ &= \frac{1}{4^n} \begin{pmatrix} -1 & 2 \\ -1 & 2 \end{pmatrix} + \frac{1}{3^n} \begin{pmatrix} 2 & -2 \\ 1 & -1 \end{pmatrix} \\ &= \frac{1}{12^n} \begin{pmatrix} -3^n + 2 \cdot 4^n & 2 \cdot 3^n - 2 \cdot 4^n \\ -3^n + 4^n & 2 \cdot 3^n - 4^n \end{pmatrix} \end{aligned}$$

解説 (1) で示したように, $\begin{pmatrix} 1 \\ 1 \end{pmatrix}, \begin{pmatrix} k \\ 1 \end{pmatrix}$ は, それぞれ行列 A の固有値 $1+s$, s に対する固有ベクトルである. 実際, A の固有方程式¹は

$$\lambda^2 - 7\lambda + 12 = 0 \quad \text{これを解いて} \quad \lambda = 4, 3$$

このことから $s = 3$ であることが分かる.

¹http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai_ri_2004.pdf を参照.

2 (1) $p = \frac{9}{10}$ とおくと、与えられた漸化式は

$$a_1 = \frac{1}{p}, a_2 = 2, a_{n+2} - 2pa_{n+1} + p^2a_n = 0 \quad \dots \textcircled{1}$$

したがって $a_{n+2} - pa_{n+1} = p(a_{n+1} - pa_n)$

$b_n = a_{n+1} - pa_n$ であるから

$$b_1 = a_2 - pa_1 = 1, \quad b_{n+1} = pb_n$$

数列 $\{b_n\}$ は、初項が 1、公比が p の等比数列であるから

$$b_n = 1 \cdot p^{n-1} \quad \text{すなわち} \quad b_n = \left(\frac{9}{10}\right)^{n-1}$$

(2) $b_n = p^{n-1}$ を $a_n = pb_n c_n$ に代入すると $a_n = p^n c_n \quad \dots \textcircled{2}$

$$\text{また, } a_1 = \frac{1}{p}, a_2 = 2 \text{ より } c_1 = \frac{1}{p^2}, c_2 = \frac{2}{p^2}$$

② を ① に代入すると $p^{n+2}c_{n+2} - 2p \cdot p^{n+1}c_{n+1} + p^2 \cdot p^n c_n = 0$

$$\text{したがって } c_{n+2} - c_{n+1} = c_{n+1} - c_n, c_2 - c_1 = \frac{2}{p^2} - \frac{1}{p^2} = \frac{1}{p^2}$$

数列 $\{c_n\}$ は、初項が $\frac{1}{p^2}$ 、公差が $\frac{1}{p^2}$ の等比数列であるから

$$c_n = \frac{1}{p^2} + (n-1) \cdot \frac{1}{p^2} = \frac{n}{p^2} \quad \text{ゆえに} \quad c_n = \frac{100}{81}n$$

これを ② に代入して $a_n = p^n \cdot \frac{n}{p^2} = np^{n-2}$ よって $a_n = n \left(\frac{9}{10}\right)^{n-2}$

(3) (2) の結果から

$$\frac{a_{n+1}}{a_n} = \frac{(n+1)p^{n-1}}{np^{n-2}} = \frac{(n+1)p}{n} = \frac{9(n+1)}{10n}$$

$$\text{したがって} \quad \frac{a_{n+1}}{a_n} - 1 = \frac{9-n}{10n}$$

$$\text{ゆえに} \quad a_1 < a_2 < \dots < a_9 = a_{10} > a_{11} > \dots$$

よって、 a_n は $n = 9, 10$ のとき最大

3 (1) $z = \frac{1}{4}$ が (*) をみたしているから $\frac{1}{4} + \left| \frac{1}{4} - \sqrt{3}i \right| = k$

よって $k = \frac{1}{4} + \sqrt{\left(\frac{1}{4}\right)^2 + (-\sqrt{3})^2} = \frac{1}{4} + \sqrt{\frac{49}{16}} = 2$

(2) α の偏角が 60° であるから, $\alpha = r(\cos 60^\circ + i \sin 60^\circ) = \frac{r}{2}(1 + \sqrt{3}i)$ とおいて ($r > 0$), (*) に代入すると

$$\begin{aligned} r + \left| \frac{r}{2}(1 + \sqrt{3}i) - \sqrt{3}i \right| &= 2 \\ \left| \frac{r}{2} + \sqrt{3}\left(\frac{r}{2} - 1\right)i \right| &= 2 - r \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

両辺を平方すると $\left(\frac{r}{2}\right)^2 + 3\left(\frac{r}{2} - 1\right)^2 = (2 - r)^2$

② より, $0 < r \leq 2$ に注意して $r = 1$ よって $\alpha = \frac{1 + \sqrt{3}i}{2}$

(3) $\beta - \alpha$ が正の実数であるとする, $\beta = x + \frac{\sqrt{3}}{2}i$ とおける $\left(x > \frac{1}{2}\right)$.

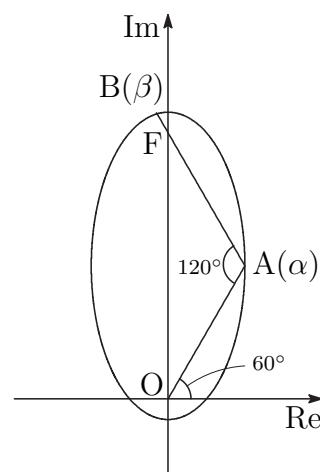
これを (*) に代入すると

$$\begin{aligned} \left| x + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right| + \left| \left(x + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) - \sqrt{3}i \right| &= 2 \\ \left| x + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right| + \left| x - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right| &= 2 \\ \sqrt{x^2 + \frac{3}{4}} + \sqrt{x^2 + \frac{3}{4}} &= 2 \\ \sqrt{x^2 + \frac{3}{4}} &= 1 \end{aligned}$$

$x > \frac{1}{2}$ は上式をみたさない. よって複素数 $z = \beta$ は (*) をみたさない.

- (4) AB と虚軸との交点を F とする . $\arg \alpha = 60^\circ$ および $\angle BAO = 120^\circ$ より , $\triangle OAF$ は $\angle AOF = \angle AFO = 30^\circ$ の二等辺三角形で , $F(\sqrt{3}i)$ である . $B(\beta)$ は直線 AF 上の点であるから , 実数 t を用いて ($t > 1$)

$$\begin{aligned}\beta &= \alpha + t(\sqrt{3}i - \alpha) \\ &= \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i + t \left\{ \sqrt{3}i - \left(\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) \right\} \\ &= \frac{1}{2}(1-t) + \frac{\sqrt{3}}{2}(1+t)i\end{aligned}$$



β は (*) をみたまから , $t > 1$ に注意しながら

$$\begin{aligned}\left| \frac{1}{2}(1-t) + \frac{\sqrt{3}}{2}(1+t)i \right| + \left| \left\{ \frac{1}{2}(1-t) + \frac{\sqrt{3}}{2}(1+t)i \right\} - \sqrt{3}i \right| &= 2 \\ \left| \frac{1}{2}(1-t) + \frac{\sqrt{3}}{2}(1+t)i \right| + \left| \frac{1}{2}(1-t) + \frac{\sqrt{3}}{2}(-1+t)i \right| &= 2 \\ \sqrt{\frac{1}{4}(1-t)^2 + \frac{3}{4}(1+t)^2} + \sqrt{\frac{1}{4}(1-t)^2 + \frac{3}{4}(-1+t)^2} &= 2 \\ \sqrt{t^2+t+1} + t - 1 &= 2 \\ \sqrt{t^2+t+1} &= 3-t\end{aligned}$$

両辺を平方して $t^2+t+1=9-6t+t^2$ ゆえに $t = \frac{8}{7}$

$$\text{よって } \beta = \frac{1}{2} \left(1 - \frac{8}{7} \right) + \frac{\sqrt{3}}{2} \left(1 + \frac{8}{7} \right) i = \frac{-1 + 15\sqrt{3}i}{14}$$

解説 $|z| + |z - \sqrt{3}i| = 2$ より , 長軸の長さが 2 , 焦点が 0 と $\sqrt{3}i$ である楕円である . 実際 , $|z| + |z - \sqrt{3}i| = 2$ に $z = x + yi$ を代入して整理すると

$$4x^2 + \left(y - \frac{\sqrt{3}}{2} \right)^2 = 1$$

α は , 上式と $y = \sqrt{3}x$ の連立方程式を解くと

$$(x, y) = \left(\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2} \right), \left(-\frac{1}{14}, -\frac{\sqrt{3}}{14} \right)$$

よって , $\arg \alpha = 60^\circ$ より $\alpha = \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i$

また，楕円の離心率 e は

$$e = \frac{\sqrt{3}}{2} \quad \left(e = \frac{\text{2つの焦点間の距離}}{\text{長軸の長さ}} \right)$$

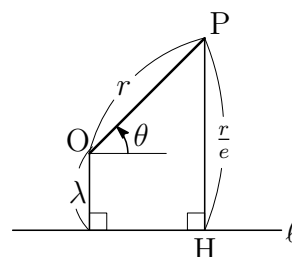
楕円の準線を ℓ とすると，楕円上の点 P から準線 ℓ に下した垂線 PH とすると

$$e = \frac{OP}{PH}$$

が成り立つ (2次曲線について成り立つ関係式) .

O から準線 ℓ までの距離を λ とする .

右図から， PH を2通りに表すと



$$PH = \frac{r}{e}, \quad PH = \lambda + r \sin \theta$$

上の2式から $r = \frac{e\lambda}{1 - e \sin \theta}$

問題において， $z = \frac{1}{4}$ をみたすとあるので， $\theta = 0$ のとき， $r = |z| = \frac{1}{4}$ ，

すなわち， $\theta = 0$ のとき， $r = \frac{1}{4}$ である．したがって， $e\lambda = \frac{1}{4}$ を得る．ま

た， $e = \frac{\sqrt{3}}{2}$ であるから，楕円の極形式は

$$r = \frac{1}{4 \left(1 - \frac{\sqrt{3}}{2} \sin \theta \right)} \quad \text{ゆえに} \quad z = \frac{\cos \theta + i \sin \theta}{4 \left(1 - \frac{\sqrt{3}}{2} \sin \theta \right)}$$

これに $\theta = 60^\circ$ を代入することにより， α が求まる .

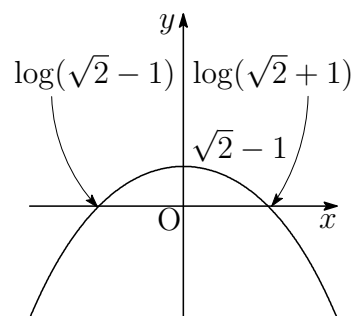
さらに， $\theta = 240^\circ$ のときの $z = -\frac{1}{14} - \frac{\sqrt{3}}{14}i$ は， $A(\alpha)$ を通り，実軸に平行な直線に関して $B(\beta)$ と対称であることにも注意したい .

4 (1) $f(x) = \sqrt{2} - \frac{1}{2}(e^x + e^{-x})$ を微分すると

$$f'(x) = -\frac{1}{2}(e^x - e^{-x}) = -\frac{(e^x + 1)(e^x - 1)}{2e^x}$$

$f(x)$ の増減表は次のようになる .

x	...	0	...
$f'(x)$	+	0	-
$f(x)$	↗	$\sqrt{2} - 1$	↘



したがって , グラフの概形は右のようになる .

$f(x) = 0$ とすると , $e^x + e^{-x} - 2\sqrt{2} = 0$ となるから

$$(e^x)^2 - 2\sqrt{2}e^x + 1 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad e^x = \sqrt{2} \pm 1$$

$y = f(x)$ のグラフと x 軸との交点の x 座標は $x = \log(\sqrt{2} \pm 1)$

$$(2) 1 + \{f'(x)\}^2 = 1 + \frac{1}{4}(e^x - e^{-x})^2 = \frac{1}{4}(e^x + e^{-x})^2$$

$y = f(x)$ は y 軸に関して対称であるから , $\alpha = \log(1 + \sqrt{2})$ とおくと

$$\begin{aligned} \ell &= 2 \int_0^\alpha \sqrt{1 + \{f'(x)\}^2} dx = \int_0^\alpha (e^x + e^{-x}) dx \\ &= \left[e^x - e^{-x} \right]_0^\alpha = e^\alpha - e^{-\alpha} = (\sqrt{2} + 1) - (\sqrt{2} - 1) = 2 \end{aligned}$$

(3) 求める立体の体積 V は

$$\begin{aligned} \frac{V}{\pi} &= 2 \int_0^\alpha \{f(x)\}^2 dx = 2 \int_0^\alpha \left\{ 2 - \sqrt{2}(e^x + e^{-x}) + \frac{1}{4}(e^x + e^{-x})^2 \right\} dx \\ &= \int_0^\alpha \left\{ \frac{1}{2}(e^{2x} + e^{-2x}) - 2\sqrt{2}(e^x + e^{-x}) + 5 \right\} dx \\ &= \left[\frac{1}{4}(e^{2x} - e^{-2x}) - 2\sqrt{2}(e^x - e^{-x}) + 5x \right]_0^\alpha \\ &= \frac{1}{4}(e^{2\alpha} - e^{-2\alpha}) - 2\sqrt{2}(e^\alpha - e^{-\alpha}) + 5\alpha \\ &= \frac{1}{4}(e^\alpha + e^{-\alpha})(e^\alpha - e^{-\alpha}) - 2\sqrt{2}(e^\alpha - e^{-\alpha}) + 5\alpha \\ &= \frac{1}{4} \cdot 2\sqrt{2} \cdot 2 - 2\sqrt{2} \cdot 2 + 5 \log(\sqrt{2} + 1) = 5 \log(\sqrt{2} + 1) - 3\sqrt{2} \end{aligned}$$

よって $V = \{5 \log(\sqrt{2} + 1) - 3\sqrt{2}\} \pi$

- 5 (1) $f(x) = \frac{1}{x}$, $g(x) = ax^2 - 3b$ とおくと

$$f'(x) = -\frac{1}{x^2}, \quad g'(x) = 2ax$$

P の x 座標を p とすると, $f(p) = g(p)$, $f'(p) = g'(p)$ であるから

$$\frac{1}{p} = ap^2 - 3b, \quad -\frac{1}{p^2} = 2ap \quad \text{ゆえに} \quad \begin{cases} ap^3 - 3bp = 1 & \dots \textcircled{1} \\ 2ap^3 = -1 & \dots \textcircled{2} \end{cases}$$

$$\textcircled{1}, \textcircled{2} \text{ より} \quad 2bp = -1 \quad \dots \textcircled{3}$$

$$\text{したがって} \quad \frac{2ap^3}{(2bp)^3} = \frac{-1}{(-1)^3} \quad \text{よって} \quad a = 4b^3$$

$$(2) (1) \text{ の結果から} \quad \begin{cases} y = \frac{1}{x} \\ y = 4b^3x^2 - 3b \end{cases}$$

上の 2 式から, y を消去して整理すると $4b^3x^3 - 3bx - 1 = 0$

③ から, $x = -\frac{1}{2b}$ を重解にもつことに注意して $(2bx + 1)^2(bx - 1) = 0$

$$\text{よって} \quad P\left(-\frac{1}{2b}, -2b\right), \quad Q\left(\frac{1}{b}, b\right)$$

$$(3) \quad f'\left(\frac{1}{b}\right) = -b^2$$

Q における C_1 の接線の方程式は

$$y - b = -b^2\left(x - \frac{1}{b}\right)$$

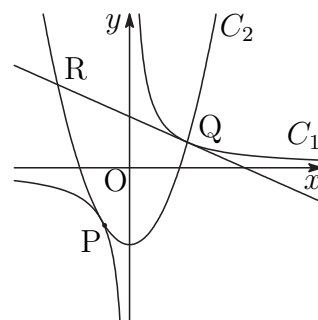
$$\text{すなわち} \quad y = -b^2x + 2b$$

これと $y = 4b^3x^2 - 3b$ から y を消去すると

$$4b^2x^2 + bx - 5 = 0 \quad \text{ゆえに} \quad (bx - 1)(4bx + 5) = 0$$

$$\text{したがって} \quad x = -\frac{5}{4b}, \quad y = -b^2\left(-\frac{5}{4b}\right) + 2b = \frac{13}{4}b$$

$$\text{よって} \quad R\left(-\frac{5}{4b}, \frac{13}{4}b\right)$$



(4) $Q\left(\frac{1}{b}, b\right), R\left(-\frac{5}{4b}, \frac{13}{4}b\right)$ から

$$\ell = QR = \sqrt{\left(-\frac{5}{4b} - \frac{1}{b}\right)^2 + \left(\frac{13}{4}b - b\right)^2} = \frac{9}{4}\sqrt{b^2 + \frac{1}{b^2}}$$

相加平均・相乗平均の関係により

$$b^2 + \frac{1}{b^2} \geq 2\sqrt{b^2 \cdot \frac{1}{b^2}} = 2$$

等号が成立するのは $b^2 = \frac{1}{b^2}$ すなわち ($b > 0$) $b = 1$

よって, ℓ は, $b = 1$ のとき最小値 $\frac{9\sqrt{2}}{4}$ をとる.